

## 建設残土の大量投棄問題

安佐北区白木町・大椿(おおつばき)林道

# いのちと財産を守るのは行政の使命

### 本会議・各委員会で総力をあげて追及



広島市安佐北区白木町三田の三篠川流域東側にある大椿林道(延長約15.5キロメートル)から谷に、大量の建設残土が投棄され、崩落、沢への流出など、土砂災害の危険が高まっています。

党市議団は、この問題を6月議会の本会

## 秋葉市長「早急に現地に行く」

### 助役も大雨のなか、現地にかけてつける

皆川議員は一般質問で、「緊急を要する問題なので、市長をはじめ、各関係部局の幹部はただちに現地をみてほしい」と強く要望しました。

会議終了後、秋葉市長は、「3日の大雨のなか、現地にかけてつけた山田助役から報告

議、各委員会できとりあげ、災害が起こる前に、①防災工事を行うこと。業者が行わない場合は、県や市が代執行すること、②すぐに投棄をやめさせること、③投棄を規制する条例を制定すること―などを要望しました。

をうけている。早急に現地に行くようにしたい」との考えを明らかにしました。

また、委員会のなかで、経済局長、下水道局長など、関係部局の幹部が現地に行くと答えました。

## 「残土処分の規制を検討する」

### 飲料水の基準で井戸水も検査する

皆川議員は一般質問で、1ヘクタール未満の林地開発を規制する条例を設けるべきと要望し、市は、「宅地造成工事規制区域を拡大する方法や、森林における残土処分そのものを直接規制する新たな手法についても検討していきたい」と答えました。

また、同議員は汚染されつつある井戸水の水質検査をしてはどうかと質問。

市は、昨年、住民からの相談で農業用水として検査をしたが、飲料水として利用している実情もあり、飲料水としての水質検査を実施すると答えました。

# 災害が起こる前に

# 県と市が一体となつてとりくみを

## 「観測所でリアルタイムに状況を監視」

皆川議員は総務委員会で消防局に対し、「災害が起こる前に先手をうった対応が必要。万全の策をとってほしい」と要望。

市は、「安佐北区白木出張所で大雨などの警報が出た場合に緊急対応ができるようにしている。また、三田雨量観測所で、リアルタイムに状況がわかるようにしている」と現状の体制について説明し、「住民の安全確保を第一に対応をとっている。各部署とも連携しておこないたい」と答えました。

## 「規制は防災対策を確保させる方向で」

藤井議員は経済環境委員会で、現状を放置せず、条例制定も含め至急方針を決めるべきではないかと追及しました。

市は、「合法である以上、すぐに投棄を中止させる手段はない。残土処分の規制については、投棄を全面的に禁止する方向ではなく、防災対策など安全を確保させる方向で検討していきたい」と答えました。

## 小規模林地開発を規制する条例制定を

東京、千葉、福井、福島、香川など、全国各地で1ヘクタール未満の小規模林地開発を規制する条例や要綱を設置し、谷地への無秩序な土砂投棄を規制する自治体が増えています。日本共産党広島市議団は、条例制定にむけて取り組んでいきます。

## 「防災工事の代執行は県が判断する」

皆川議員と藤井議員は、それぞれ一般質問と委員会で、県から中止命令をうけている違法投棄現場について、「住民の命を守るため、業者がやらないなら行政が防災工事を代執行すべき」と求めました。

これに対し市は、「代執行は森林法に基づいて県が判断する」と答えました。

## 「たらいまわし」はゆるぎない

村上議員は上下水道委員会で、「この間、住民は、県にも市にも要請を繰り返しているが、『担当が違う』とたらいまわしにされている。この問題は、早急な対策と、中・長期的な対策が必要」と指摘。住民の命と安全、財産を守ることを最優先に、県と市、関係部局が一体となつて取り組むよう求めました。



## 「いつでも逃げられるよう準備している」

## 住民の立場で早急に各部局が連携して対策を

地元住民からの通報をうけ、党市議団の調査団が現地調査したところ、林道沿いに4つの投棄現場がありました。そのすべてに擁壁や砂防堰堤などの防災施設がなく、建設残土が谷に無造作に投げ込まれており、崩落や沢への土砂流出が確認されました。

「土砂が河床を埋めて鮎漁に被害が出ている」「井戸水が汚れてきた」「いつ土砂が崩れるかわからない」など、住民の不安は梅雨をむかえ、日増しに高まっています。

藤井議員は経済環境委員会で、「住民はいつでも逃げられるようリュックを用意している。それでも、いざ山が崩れば逃げる時間はないかも知れない。そんな不安な日々を送っている住民の立場にたつて考えるべきだ」と強調。「大椿林道は、森林保全を目的に約200人の地権者から市が買い取り、約13億5千万円かけて整備したものだ。市民の生命第一に、早急に各部局が連携して対策に取り組んでほしい」と強く求めました。



## 2分に1台のペースで次々に！

党市議団の調査団が現地につけた当日も、雨のなか、2分に1台のペースで林道脇から谷に投棄がおこなわれていました。